

本学競技者に関する研究(7) —年代別競技スポーツ経験の影響—

雨ヶ崎 俊子 阿江 美恵子 掛水 通子

緒言

本研究者は、女性競技者の競技人生に深く関心を持っている。本学の競技スポーツ大会に参加した競技者のうち、主要国際競技大会に参加したエリート競技者について(本学の過去40年にわたる)、平成8年度の紀要でまとめた(阿江、1997、掛水、1997)。

本学の競技者には、エリート競技者を含め、運動部で大学生活を送った競技者も数多く存在する。本学の運動部入部状況を平成9年から過去数年にわたってみると、公認クラブのうち運動競技クラブ25部の入部率は毎年6割程度である。未公認の運動競技クラブ3部の入部率と合わせると、約6割から7割前後の学生が運動部に所属し競技生活を送っている(平成9年、学生課調べ)。本学の運動部は競技力も高く、有力な指導者を数多く有している運動部である。各運動部の競技レベルは様々であり、先の研究対象としたエリート競技者であるチャンピオンスポーツ層^{脚注)}は少数であり、それ以外の競技者であるクラブスポーツ層^{脚注)}ははるかに多い。何れの層も運動部員は競技することを目的として活動している。前年より本学運動部所属者のうちエリート競技者を除いた競技者を対象に研究をすすめている。大学時代のスポーツとの関わりを、主として心理的側面から検討し、「本学競技者に関する研究(5)」(阿江、1998)で報告した。

日本学術会議は、1994年「女性科学研究者の環境

改善の緊急性についての提言」という声明を発することを決議した。このことを受けて、日本学術会議体育学研究連絡委員会は、上記声明作成準備の時期にあたる1992年に「女性のライフサイクルからみた身体運動と健康」についてのシンポジウムを開催した。高齢化といった人口構成の変化を含め、わが国の生活環境が実に多様な変容をとげつつあるなかで、女性がスポーツをどのように意識し、実践すべきなのかという観点から論じ合った(宮下ら、1995)。

これは女性のスポーツと研究・教育への関心を高めるという意味をもつものでもあった。

女性のライフサイクルの変容は、スポーツをはじめ様々な身体運動にも積極的な参加がみられるようになった。また、多種多様なスポーツ種目の中で、かつては男性独特のスポーツといわれた種目にも女性がチャレンジするようになり、現代では女性の参加しない運動種目は殆どなくなってきている。こうしたスポーツの変化は、競技者のスポーツに対する考え方、関わり方にも時代観によって変化していることが予想される。

本研究は、前年の研究対象者を同じくし、競技スポーツに対する考え方や、主として卒業後の生活に競技スポーツがどのように影響しているかについて年代別区分により検討を行い、競技スポーツ経験が人生に及ぼす影響を明らかにする資料を提供することができると考えている。

脚注 参考欄は、1973年に日本体育協会が「スポーツ階層意識」の調査を行った。上層、中層、下層に区分し、チャンピオンスポーツ層、クラブスポーツ層をスポーツ階層意識の上層としている。

方法

1. 対象および調査方法

東京女子体育大学の8運動部(トランポリン、スピードスケート、卓球、新体操、バレーボール、ソフトボール、フェンシング、カヌー)の卒業生名簿からランダムに抽出した653名に調査用紙を郵送した。回収率34.15%、有効回答数は223名であった。尚、各運動部の名簿は全て揃っている状況になかったり、未整備の部や調査に間に合わなかった部などがあったことから、これで運動部所属卒業生の競技者の動向を把握するには限界がある。

2. 調査期間

1997年7月から10月。

3. 調査内容

エリート競技者の調査(阿江ら、1997)で用いた調査項目からエリート選手用の内容を削除し、大学時代の競技スポーツ経験がその後の人生に及ぼした影響を問うなどの質問を追加した調査用紙を作成した。尚、調査内容はこの他の事柄を含むものであるが、本研究は調査内容の一部である。尚、用いた調査用紙は資料として最後に添付した。これは、阿江ら(1997)、掛水ら(1999)でも用いたものである。

結果および考察

1. 年代別対象者

回答数223名のうち、競技を行わないダンス部であったと回答した2名と、世界選手権出場者の1名(先の調査にもれたもの)の計3名を除き、220名を結果の分析の対象とした。大学卒業が177名、短大卒業が43名である。

図1は、対象者の年代別人数の割合である。20代34.1%、30代32.7%、40代22.7%、50・60代10.5%である。年齢は20才から65才にわたり、平均年齢は35.4才である。ここでは、この年代区分に基づいてアンケー

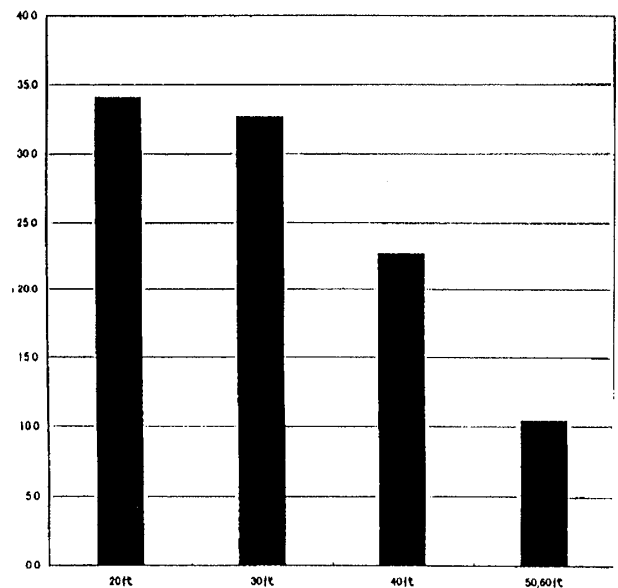


図1 年代別の人数の割合

トの各質問項目別に結果を検討する。

図2は、対象者の年代別運動部所属種目である。本学の運動部の推移を見るという意味から、高年代から若年代に向けてみると、50・60代では、バレーボール52.2%、と最も高い割合を示し、次いで卓球17.4%トランポリン12.5%である。スピードスケート、フェンシング、ソフトボールは何れも0%であったのは、当時これらの運動部は設置されていなかったか、或いは回答を得られなかったか何れかの結果と思われる。40代では、8運動部にそれぞれ2%~18%の所属があり、運動部所属数の増加や所属の広がりが見られる。このことは30代、20代にも同じ傾向が見られるようになる。30代では、新体操26.4%、ソフトボール18.1%と他の種目を抜いて高い割合を示し、20代では、ソフトボール24%、新体操22.7%と30代と同じ傾向を示している。対象者の年代別所属種目を高年代から若年代へとみたが、スピードスケートのように各年代を通じて所属割合がほぼ一定している種目もあれば、ソフトボールや新体操は近年に従って増加傾向にある等、運動部も様々に変化していくことが解る。これらは、スポーツ界の隆盛、衰退などを背景に、学生のスポーツに対する志向の変化などを反映するという面から興味深い。と同時に、本学運動部の推移の一端を見ることができる。

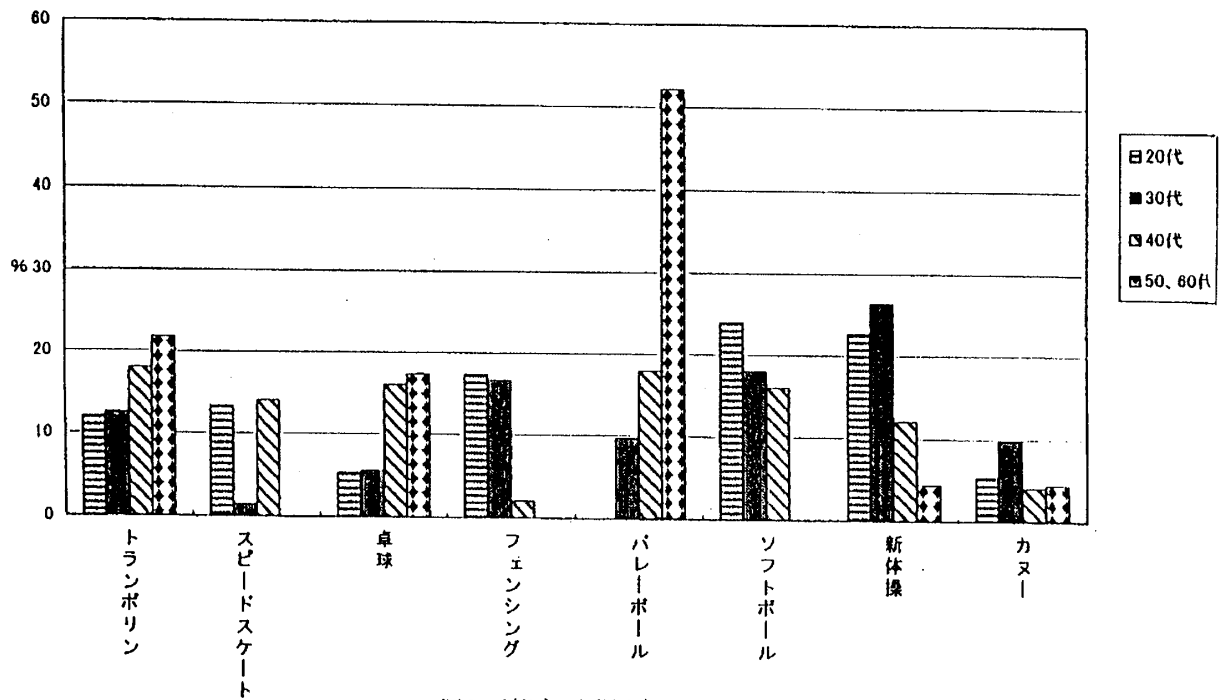


図2 対象者の年代別所属種目

2. 年代別の就業状況

卒業後の職種は、体育教師、体育以外の教師、民間スポーツトレーナー、会社員、公務員など多種にわたっている。図3は対象者の現在の職業をみたものである。体育教師は、50・60代13.0%、40代16%、30代

6.9%、20代8%であり、大学卒の資格を生かして各年代とも教職に関する就業が最も高い割合を示している。ただ30代、20代と若年代において減少していることは、生活環境や、意識の変化があるにせよ、時代を反映して体育教師の就業は徐々に困難になってきていることと一致しているようである。20代では、

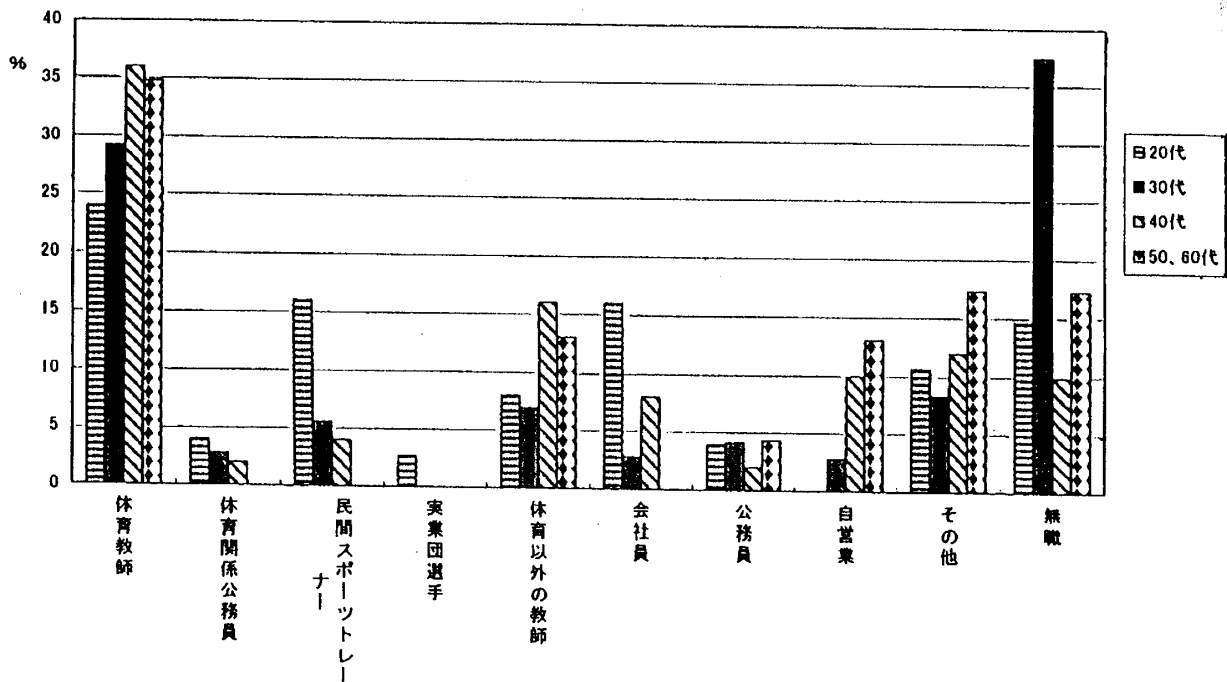


図3 年代別の現在の職業

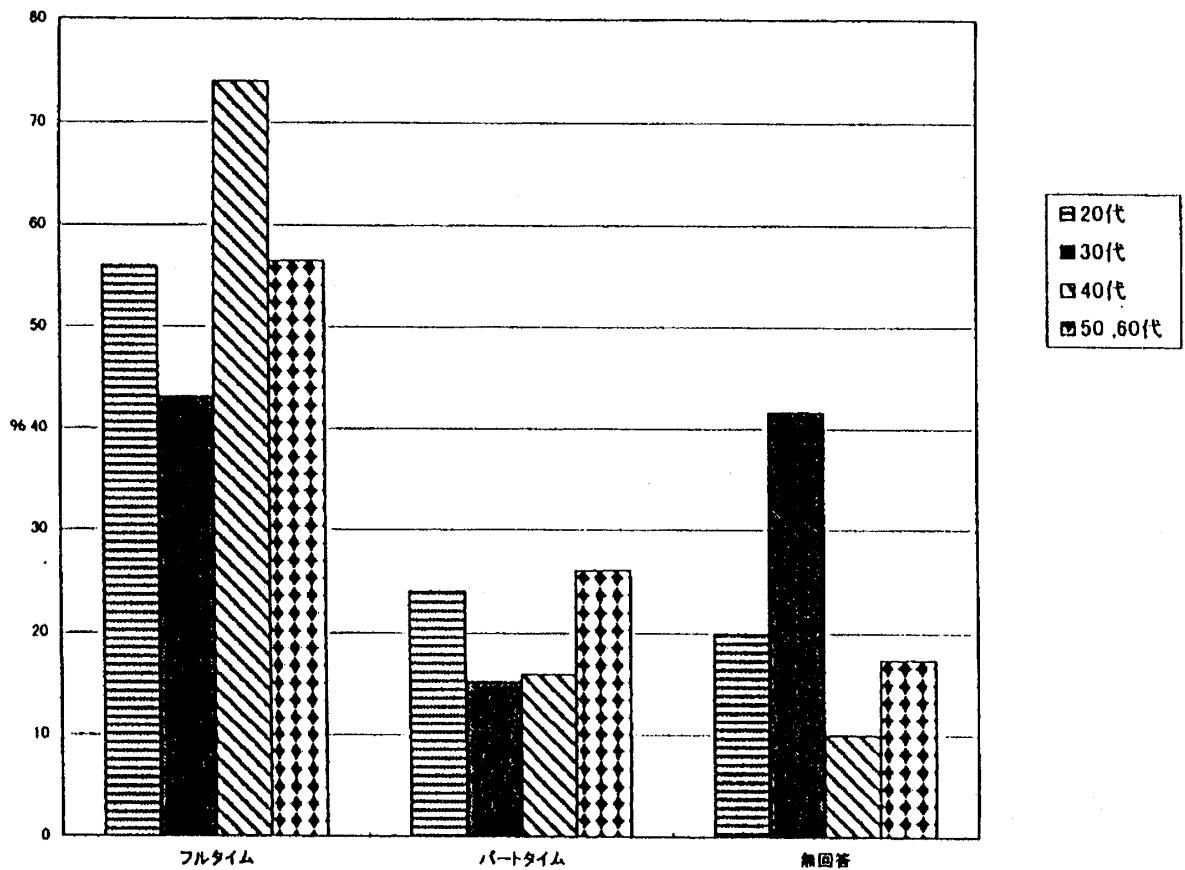


図4 年代別就業形態

民間スポーツトレーナー16%、会社員16%、体育関係公務員4%、実業団選手2.7%など、専門や経験を生かした就業が少しずつではあるが見られるようになる。

図4は年代別就業形態をみたものである。就業形態をフルタイムで見ると、40代が74%と最も高く、次いで50・60代が56.5%、20代56%、30代43.1%であった。パートタイムは、50・60代26.1%、20代24%、40代16%、30代15.3%であった。就業形態がフルタイムかパートタイムかの何れにおいて、30代の年代層で減少していることは、結婚、出産、育児を期に退職したと考えられる。これら各年代の比率が卒業生全体の就業状況と一致するものではない。しかし、30代で減少した就業率が今後40代で増加するか、このままフルタイム有職率が維持されるかは判断できないが、40代、50・60代のフルタイム有職者がこの30代を乗り切って継続していることを考えると、30代の年代層になっての減少は気になるところである。

3. 競技スポーツと勉学の両立

大学は本来、真理の探求、専門的知識・技能の修得、広い教養を身につけるという意義をもっている。大学生活が満足であったかどうかは、大学進学目的やその意義が果たされたか否かによって評価も様々となる。本学で学んだことに対して、どの程度満足しているかをみた結果は、全体でやや満足とするもの47.4%、非常に満足20.5%、どちらとも言えない20%、やや不満8.8%、非常に不満3.2%であることは「本学競技者に関する研究(5)」で報告した。これを非常に不満1から非常に満足5までの5段階評定で数量化し各年代の平均点を図示したものが図5である。満足度は、50・60代、40代、30代ともにほぼ4.0を示したのに対し、20代では3.5と若年代はやや低くなっている。

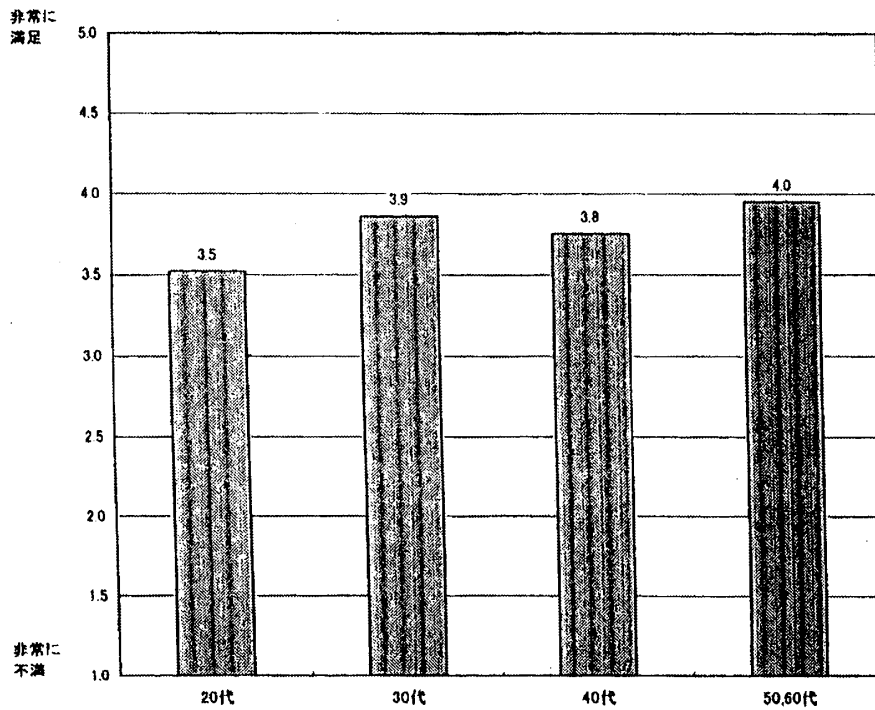


図5. 年代別大学への満足度

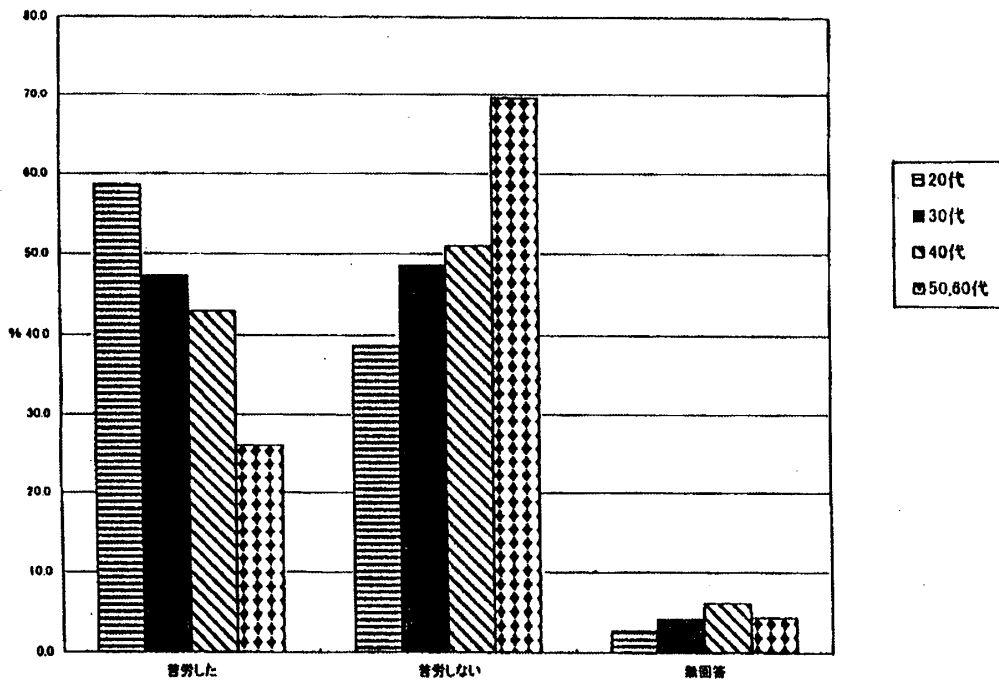


図6. 年代別勉学との両立

運動部所属者にとってのスポーツは、大学生活全般にわたって重要なウェイトを占めていると思われる。競技者に要求されるスポーツトレーニングの時間の長さや、部としての役割分担を果たすために、

勉強する時間がなかったり、疲れて勉強まで時間をとることが出来ないとか、試合のために授業を欠席しなければならないこと等が多い。大学時代に競技スポーツと勉学の両立について苦勞があったかどうか

かを質問した。図6は年代別勉学との両立についてみた結果である。両立に苦勞したとする回答のうち、20代で58.7%と最も高い割合を示し、若年代になる程苦勞したという結果である。両立に苦勞しないと回答した人は、50・60代で69.6%であり、苦勞したとする年代とは反対に、加齢に伴って苦勞がなかったとしている割合が高い($X^2=9.00, P<0.05$)。

競技スポーツと勉学の両立について年代別に比較した結果を一概に言うことは困難である。教育の現場では、社会状況を背景に、そのニーズに対応して教育課程の変遷があり、その履修方法も異なる。一方、競技スポーツの技術水準の高度化が現代スポーツの特徴とされている現状では、若年代程トレーニング内容やそれに要する時間など、意識の上で生活の主要な部分を占めていることが多くなっていると思われる。競技スポーツと勉学の両立に苦勞したか否かを吟味するには運動部や時代など歴史的背景から検討することも必要であろう。

総じて、本学で学んだことを満足としている者が「非常に満足」「やや満足」を合わせて約7割であり満足度は高い。女性にとって競技者としての生活は主として大学時代にあることを思うと、それが高い評価につながっていると考えられる。

4. 競技スポーツ経験の影響

スポーツをする理由として色々考えられるが、好きだから、気晴らしという「心理的理由」、運動競技力を高めるとか、スポーツ技術を身につけたいという「技術的理由」、健康や体力の維持増進に役立てるとい「健康面の理由」、交友関係を広げたいという「社会的理由」などに大別されると考える。一般的には心理的な理由が多いと予想される。

本学競技者のスポーツ開始年齢はかなり若くなっていることがわかっている(阿江ら、1998)。中学校からスポーツを開始した者は8割を超えており、スポーツのキャリアとしては十分な経験を有している。専門性の高くなる大学で競技スポーツを選択したという理由は、スポーツが好きという心理的な理由ばかりではなく、競技力を高めるとか、技術を身につけるとい技術的理由など複雑にからみ合っていると考えられる。

大学卒業後に競技スポーツを継続した者は27.8%であり、競技を完全に引退した者は64%である。競技者の寿命は短い、大学時代に競技者として生活したことが、卒業後の人生にどう影響したかを問い、年代別に示したものが図7である。「大いに役立つ

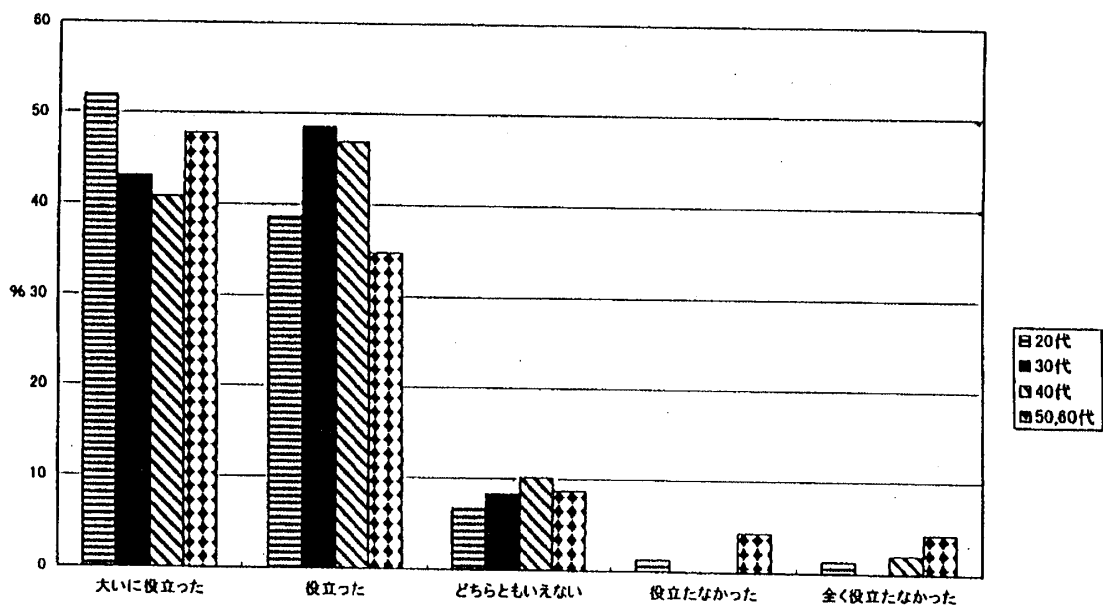


図7 年代別スポーツの人生への影響

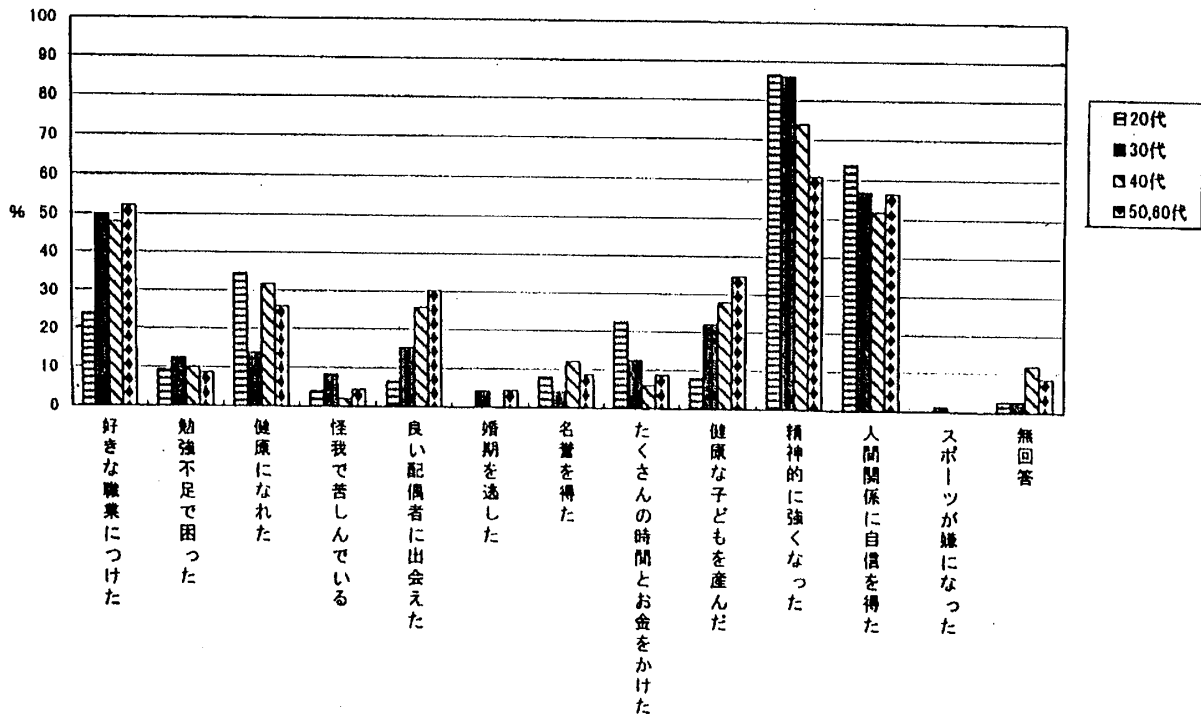


図8 スポーツの具体的影響

た」と「役立った」を合わせると全体で88%を占めており、30代と20代は共に9割を超えている。「どちらともいえない」と回答した者は各年代で8%から10%である。30代では「役立たなかった」、「全く役立たなかった」が0%、40代で「全く役立たなかった」が0%であった。大学時代の競技スポーツの経験は大きく優位に意識されており、社会生活の上で効果が大きいことを高く評価している。

スポーツの具体的な影響について問い(複数回答)年代別にまとめたのが図8である。各年代を通じて最も高く評価している事項は①「精神的に強くなった」ことであり、若年代に従ってその割合は上昇の傾向を示している。次いで優位順にみていくと、②「人間関係に自信を得た」、③「好きな職業に就けた」、④「健康になれた」、⑤「良い配偶者に出会えた」、⑥「健康な子どもを産んだ」などとなっている。

江刺によれば(1980)、スポーツをいかに定義しようとも、スポーツには身体的側面、社会的側面、および文化的側面の3つの側面が相互不離あるいは統合されて存在しているという。調査結果から、「精神的に強くなった」、「健康になれた」を高く評価してい

ることは、スポーツは心身の健全な発達を促すという点で、人間の有機体としての身体的側面での評価をしていることが解る。ただ、少数ではあるが「怪我で苦しんでいる」とする者が50・60代と30代にあり、スポーツによるリスクを負っている状態にあることは痛ましいことである。また、「人間関係に自信を得た」としていることは、スポーツの「協同と競争」という人間関係の基本的なあり方を学び、スポーツ文化のもつ集団性から得たものが大きいことを示しているといつてよい。さらに「好きな職業に就けた」という点では、20代を除いた各年代で約50%を占める中で、20代では25%と低くなっている。社会的には近年職業選択の幅が拡大されている状況にもかかわらず、20代は希望する職業に就きにくいという結果は、本学の学生の多くは教職に就くことを望んでいるのであろうか。その他、競技スポーツを行ったことによって「婚期を逸した」と思っている者が、30代、50・60代に見られた。「たくさんのお金と時間をかけた」としている者は、30代、20代と若年代割合は高くなっている。全体として社会生活に良好な影響を得たとみることができる。

調査結果の全体から、前述のスポーツの内在する3つの側面が関連し合い、大学時代の競技スポーツの経験は人間の成長を助け、その後の人生に大きく良い影響をもたらしていることが理解できる。

5. 大学卒業後のスポーツとの関わり

本学の競技者が大学卒業後の生活において、スポーツを実際に行うというスポーツ参加の形態に焦点を当て実状をみた結果が図9である。調査は各自が自分の年齢を10年ごとに区切ってまとめて記入したものである。これを各年代層別にみると、20代は、79.7%であった。30代は、20代で84.7%から30代になって65.3%と加齢に伴ってスポーツとの関わりが減少している。40代は、20代で76%、30代で82%と増大し、40代になって80%とやや減少するが、30代と40代の年代層で8割の高い値となっている。50・60代は、20代で77.3%、30代で78.3%と割合が高くなり、40代72.7%、50代になって56.5%と減少するが、60代で75%と再び高い値となっている。各年代層の全体を通してスポーツを実際に行っている者が7割から8割と高い割合を示している。年代によってスポーツ

参加の差が近接したり、開いたりする結果は、仕事や家族形態等の社会環境と関係した結果と思われる。

「体力・スポーツに関する世論調査」(総理府、1994年)によると、年間に何らかの運動・スポーツを行ったことがあると答えた者(成人)の割合が男性が65.7%であるのに対し、女性は59.2%と男性のそれより6.5%近く低い値となっている。本学競技者の大学卒業後におけるスポーツ参加の状況はこれら男女の割合を大きく上回っており、競技スポーツ経験と卒業後のスポーツ参加の有無は深く関わっていると考えられる。宇土(1994)は、生涯スポーツに引退という2文字はなく、精神的・身体的・社会的に常に変化し続ける人の生涯の各時期にスポーツを合わせていくことが大切である。スポーツに合わせることは無用である、と強調している。生涯スポーツは、人の生涯の長きにわたって、自発的、主体的に行うことが望まれるところであるが、競技スポーツ経験があり、高い技能を持ち合わせている本学競技者たちは、各年代に応じたスポーツを生涯にわたって続けることを心得ている実態があるとみてよいであろう。スポーツを人間の文化として有することを期待したい。

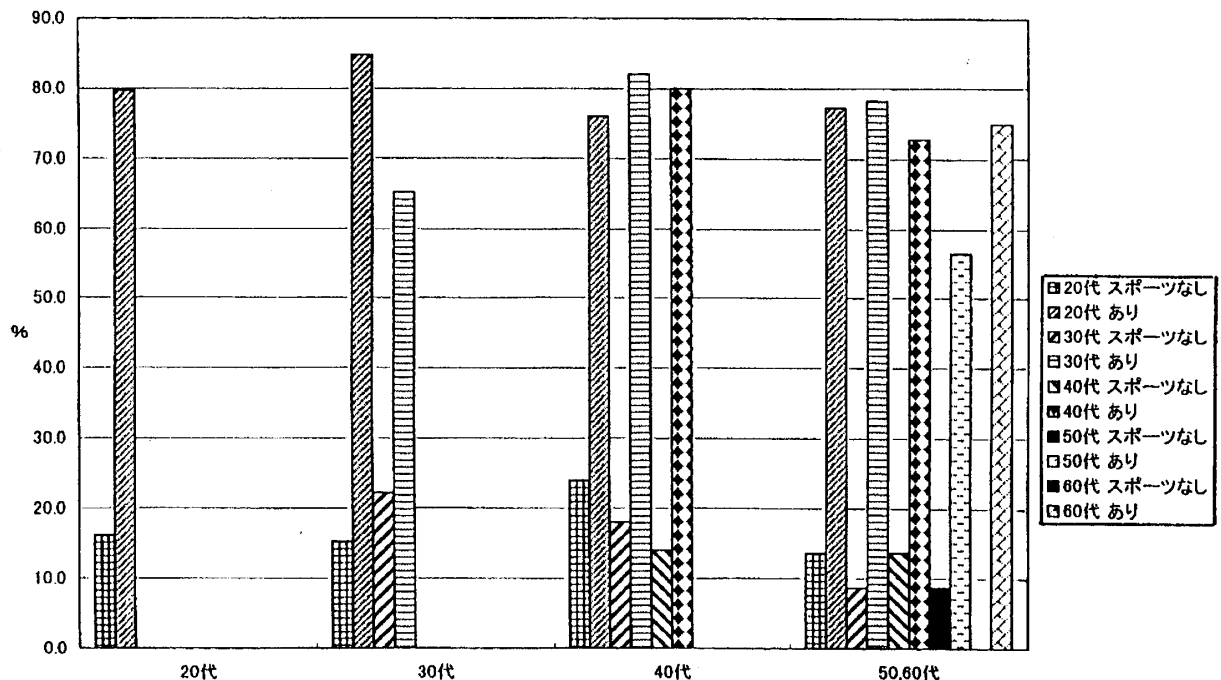


図9. 年代別スポーツとの関わり

まとめ

1. 研究対象者の年齢は、20才から65才であり、平均年齢は35.4才であった。年代別には、20代34.1%、30代32.7%、40代22.7%、50・60代10.5%であった。
2. 年代別所属種目は、50・60代では、バレーボール52.2%と5割を超えた高い値であり、次いで卓球17.4%、トランポリン12.5%であった。スピードスケート、フェンシング、ソフトボールは0%である。40代では、8運動部それぞれに2%~18%の所属があり、運動部所属数が増え広がりが見られるようになる。このことは30代、20代も同じ傾向である。30代、20代では、新体操が26.4%~22.7%とソフトボールが18.1%~24%と他の種目を抜いて高い値を示すようになる。各年代を通じてスピードスケートのように所属割合がほぼ一定している種目があり、また、若年代に向かって新体操、ソフトボール等は高い割合を示す種目も見られる。学生のスポーツに対する時代観、志向の変化の一端を見ることができる。
3. 大学卒業後の職種は、各年代とも大学卒の資格を生かし教職に就く者が最も高い割合を占めている。ただし、若年代になるに従って低い値であり、体育教師の就業は徐々に困難になってきていることが解る。20代では、民間トレーナーや会社員など専門や経験を生かした就業が少しずつ見られる。
4. 就業形態を見ると、フルタイムでは40代が74%、パートタイムでは50・60代が26.1%と高年代が高い割合を占め、フルタイムとパートタイムの何れの形態でも30代が減少している。この比率は卒業生全体の就業状況と一致するものではないが、40代、50・60代のフルタイム有職者は、この30代を乗り切って継続していることが解る。
5. 競技スポーツと勉学の両立は、苦勞したとする者は20代が58.7%、苦勞しないとする者は50・60代が69.6%と最も高い割合を示した。若年代程苦勞したとすることとは反対に、加齢に伴って苦勞がなかったとしている。時代状況を反映

して教育課程の変遷、履修方法が異なることや、一方、競技スポーツの技術水準の高度化による変化等、若年代程勉学との両立は苦勞であると感じているようである。

6. 競技スポーツ経験の影響については「大いに役立った」「役立った」と合わせると全体で88%である。20代と30代は共に9割を超えている。大学時代における競技スポーツの経験は大きく優位に意識されており、効果が大きいと高く評価をしているものが殆どである。具体的には、各年代とも最も高く評価した事項は「精神的に強くなった」ことであり、このことは若年代に従って上昇の傾向を示している。その他、「人間関係に自信を持てた」、「好きな職業に就けた」、「健康になれた」等としている。少数ではあるが50・60代、30代に怪我で苦しんでいる者もある。全体として、競技スポーツの経験は社会生活に良好な影響を得たと高く評価している。
7. 大学卒業後の生活でスポーツを実際に行っている者は、各年代とも7割から8割と高い値である。40代と50代の年代になったところでやや減少の傾向をみたが、全体として本学競技者たちは、各年代に応じてスポーツを行っていることが解った。

謝辞 本研究の調査に当たり、名簿を貸して頂いた8運動部の関係者の方、調査に快く協力して下さいました卒業生の皆様に深く感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 阿江美恵子ら、「本学競技者に関する研究(4) —エリート競技者の心理的問題に関する分析—」、東京女子体育大学紀要第、32：16-25、1997
- 2) 阿江美恵子ら「本学競技者に関する研究(5) —運動部所属卒業生への心理的調査—」、東京女子体育大学紀要、33：22-28、1998
- 3) 宮下充正、「女性のライフステージからみた身体運動と健康」、杏林書院、1995、pp.1-4

- 4) 日本体育協会、「日本人のスポーツ行動」、日本体育協会、1974、pp.68-71
- 5) 江刺正吾、「学生の生活とスポーツ」、道和書院、1980、pp.25-28
- 6) 江刺正吾、同上書、1980、pp.76-82
- 7) 総理府、「体力・スポーツに関する世論調査」、参照1994
- 8) 宇土正彦、「女性の健康と運動」、現代教育社、1994、pp.64-67.

<付記>

この研究は、平成9年度文部省科学研究費(基盤C(2)課題番号09680140 研究代表者 雨ヶ崎俊子、共同研究者 掛水通子、阿江美恵子)を得て行われた。

No.1

<調査用紙への記入上のご注意>

1. 一枚目(本学)の入学・卒業年など基幹的資料となる項目です。氏名は本来このように調査で記入して頂きたいのですが、対象卒業生であり、各運動部の名簿をお借りしたこともありまして、真正を持った回答を依頼すべく、記名して頂くことに致しました。
2. 無名でも結構ですが、返信用の封筒には必ず氏名と住所をご記入下さい。
3. 卒業年が当てはまるもの外に○をつけて、年次数字をご記入下さい。
4. 二枚目以降は、記入のし方がいろいろあります。分量が多くて申し訳ありませんが、よく読んでから当ではまる番号○をご記入下さい。その他に該当する際は、具体的内容を載せて下さい。
5. 調査用紙全部で 4 枚あります。

ふりがな
氏名 (旧姓) () 年齢 _____ 歳

大学入学年 昭和・平成 _____ 年
卒業年 侯体・大学 卒・中途 昭和・平成 _____ 年 _____ 月
(編入者は最終卒業年)

大学での所属クラブ名 _____ 部 役職 (主将・主務など) _____
出生地 (生まれた場所) _____ 都道府県
出身高校名 _____ 都道府県 私・公立 _____ 高等学校

現在の職業 _____ (具体的に)
職業者以下の中から該当するものを番号で記入して下さい。
①体育教師 ②体育関係の公務員・団体職員
③スポーツコーチ・トレーナー等 (民間) ④実業団選手
⑤プロスポーツ選手 ⑥教師 (体育以外) ⑦会社員
⑧公務員・公務員職員 (体育以外) ⑨自営業
⑩ その他 (具体的に記入下さい) ⑪無職

職業をお持ちの方
就労の形態はどちらですか (どちらかに○) フルタイム・パート _____ 後職 _____
所属競技団体名 (所属がある場合のみ) _____

運動歴と最高成績 これまでのスポーツ経験種目をあげて下さい。(種数可)
種目 ()
学校 小学校 ()
中学校 ()
高校 ()
大学 ()
大学卒業後 (競技を継続した方のみ) ()

競技年次
上記の最高成績を記入したスポーツでその間に出場したことのあるものもとも兼いレベルの大会の番号を下記の(1)から(6)に従って()の中に記入して下さい。(併記経験のない人は○と記入して下さい)
(1) 外国で行われた国際大会 (2) 国内での国際大会
(3) 全国大会 (4) 地域 (市・町・村) 大会
(5) 県・都・道・府 大会 (6) 地区 (市・町・村) 大会

趣味 ()

『競技選手の社会的・心理学的事情に関する調査』

1. 最初スポーツを始めた年齢が何歳でしたか。種目は何でしたか。また、始めた一番最初の理由は何ですか。あてはまるもの一つ意の記号に○をつけて下さい。

- 理由 () 歳 種目 ()
1. 勧められたので (勧めた人がおぼろげですか?) ()
 2. おもしろそうだったから ()
 3. 試合に出たかったから ()
 4. 友達が始めたから ()
 5. 他の人より成績 (記録) がよくなったから ()
 6. 有名選手に憧れて (憧れですか?) ()
 7. その他 (具体的に) ()

2. 1で開始したスポーツ種目はしばらく継続しましたか。あてはまるものに○をつけて下さい。

1. 大学卒業後まで継続した (継続年数は?) 年 現在一引退した・現役
2. 大学まで継続した (継続年数は?) 年
3. 途中で他の競技に変えた (競技の空白期間なし)
4. 途中で他の競技に変えた (競技の空白期間あり)

3. 大学で所属した運動部の生活についてお伺い致します。あてはまるものに○をつけて下さい。

①大学で新しいスポーツ (競技とは異なる) を始めましたか。はい、いいえ

No.2

①(何)と答えた所はその理由は何ですか。(一つ〇を)

- 1. 今までやったことのない新しいスポーツをしたかった
- 2. 今まで行っていたスポーツに似ているから
- 3. 大学で始めても試合に出場できそうだったから
- 4. 何かスポーツをしたかった
- 5. 高校でその種目の運動部がなくできなかつた
- 6. 友人に誘われた
- 7. その他…(自由)

②怪我や病気(直すまでに1ヶ月以上かかる)をしたことがありますか

- 1、はい 2、いいえ

③競技をやめたいと思ったことはどれくらいありますか(一つ〇をつけて下さい)。

- 1いつも 2時々 3たまに 4全くない

この3つに〇をつけてください。

主な理由は何だったでしょうか。(一つ〇をつけて下さい)。

- 1、練習がきつい 2、人間関係がつかない 3、指導者が嫌しい
- 4、試合に出られぬ 5、もつと他のことがやりたかつた
- 6、その他(差し支えなければ書いて下さい)

④学生時代に練習や大会に出場するための経費は主として誰が負担しましたか(一つ〇をつけて下さい)。

- 1、両親 2、学校 3、後援会 4、JOC 5、競技団体
- 6、スポンサー 7、その他(具体的に)

⑤大学で競技を病んで一番良かったことは何ですか(一つ〇をつけて下さい)。

- 1. 良い成績をあげられたこと
- 2. 有名な大会に出られたこと
- 3. 他人の体験できなかったこと
- 4. 人生が成功しなかったこと
- 5. 良い職業につけたこと
- 6. その他(具体的に)

⑥大学で競技を引退したときどのように思いましたか(一つ〇をつけて下さい)。(理由?)

- 1. 二度とやりたくなかつた
- 2. 引退して良かった
- 3. よくやつたと自分をほめた
- 4. 引退が寂しかつた
- 5. まだ続けるので楽しみであつた

⑦自分の嫌いな、または同じ種目をさせたいと思いませんか(一つ〇をつけて下さい)。

- 1 全く思わない 2 やや思わない 3 どちらともいえない 4 やや思う
- 5 非常に思う

理由が足りませんでしたら書き下さい。

4. 勉強について(大学時代のこと)

- ①学生時代に勉学の頑立に苦労しましたか 1、はい 2、いいえ
- 苦学(科目) () 得意な科目 ()
- ②学生時代に学んだことで卒業後に役に立ったこと(どのようなことですか)
- 一般知識 ()
- 専門知識 ()
- 語学生活 ()

③もつと勉強しておかばよかつた科目とか、取得しておかばよかつたという資格がありますか、自由に書き下さい。

④試合で怪(け)なこと(け)もあつたと思いますが、勉学との頑立をどのように考えますか、一つ〇をつけて下さい。

- 1. 特別取組(特別)を認めてもらえただけで十分である
- 2. 学校の代表で出場するので、容易に単位取得できるよう配慮があつて当然だ
- 3. 特別に補習などをして単位を取らせるべきである
- 4. 特別な取組は必要ない(自分の責任で試合に出場しているので)
- 5. その他(具体的に)

⑤本学で学んだこと(け)どれくらい満足していますか(一つ〇をつけて下さい)。

- 1 非常に不満 2 やや不満 3 どちらともいえない 4 やや満足 5 非常に満足
- である ある いる

5. 大学卒業後のことについてお伺い致します。

①卒業後の競技生活とのかわり(け)はどの程度ですか(一つ〇をつけて下さい)。

- 1. 競技を病む条件で就職した
- 2. 就職(競技)と直接(関係)がなかつたが、競技(継続)した
- 3. 競技を継続するために、すぐ(就職)した
- 4. 競技を引退し、就職した
- 5. 就職せず、競技も引退した
- 6. 就職後、他の競技を始めた(具体的に種目名)
- 7. その他 ()

No.3

② ①で1、2に○をつけた競技を続けた方のみ答え下さい。

・職務の練習頻度前のようなか 指導者 1いる 2いない

練習場所 1ある 2ない

練習時間 1十分 2十分 3十分 4十分

仲間 1良い 2悪い

職務の理解度 1十分 2不十分

・競技を続けた方のみ答え下さい。(あてはまる番号に○を)

全く違う 非常にそうだ

1 2 3 4 5

もっと良い成績を上げたかったから

練習条件が良くなったから

協会から依頼されたから

自分の可能性を信じたから

限界まで挑戦したかったから

・社会人競技者としての自分を評価して下さい

競技能力 1向上した 2低下した

仕事 1楽しかった 2楽しなかった (理由)

知識力 1不足していた 2十分であった

競技成績 1向上した 2低下した

・競技のための必要経費が負担されましたか(一〇〇を)

1自分 2両親 3後援会 4会社 5JOC 6競技団体

7スポンサー (具体的に)

・競技が引退後就職しましたか 1はい 2いいえ

引退りの方 その理由 ()

③ ①で3と答えた方のみ答え下さい。

・引退時の状態を維持しましたか ()年間

・就職しなかった理由は競技継続を優先したからですか 1はい 2いいえ

・競技のための必要経費が負担しましたか(一〇〇を)

1自分 2両親 3後援会 4会社 5JOC 6競技団体

7スポンサー 8その他 (具体的に)

・就職せずに競技を継続することへ不安はありませんか 1はい 2いいえ

引退りの方は理由 ()

④ ①で4、5と答えた方のみお答え下さい。

・引退すると考えた主な理由は何ですか(一〇〇を)

1、限界を感じたから

2、卒業してまでもやりたくなくなった

3、怪我で思うように動けなくなったから

4、競技を継続できる就職先がなかったから

5、仕事に専念したかったから

6、学生時代に完全燃焼して、目標がなくなったから

7、指導者がいなくなったから

8、その他 (具体的に)

6. 職業について答え下さい。

①教員免許は取得しましたか 1はい 2いいえ

②大学卒業後現在までの就労先が以下のどれですか。あてはまるもの一〇〇をつけて下さい。

1、就職先全くしなかった

2、就職し現在も継続している (定年退職を含む)

3、就職したが、途中で退職した (その後就労せず)

4、就職したが、その後何回か転職し(パートを含む)、現在働いていない

5、就職したが、その後何回か転職し(パートを含む)、現在働いている (定年退職を含む)

6、その他 ()

③大学卒業後、最初に就いた職業は何でしたか。次の項目から選びその番号を書き入れて下さい。(②の2~6までに答えた方のみ)。

(具体的に)

①体育教師 ②体育関係の公務員・団体職員

③スポーツコーチ・トレーナー等 (民間) ④実業団選手

⑤アスリート選手 ⑥教師 (体育以外) ⑦会社員

⑧公務員・公的職員 (体育以外) ⑨自営業

⑩その他 (具体的に記入下さい) ⑪無職

・就労の形態はどちらでしたか 1フルタイム 2パート

④途中で退職した方は、合計で何年間仕事をしましたか。 ()年間

⑤②で3と4と答えた方のみ

就職・退職した方は、何回転職・退職 しましたか ()回

②で3~5と答えた方のみ

第一回目の転職・退職の理由は何ですか(一〇〇をつけて下さい)。

1、競技を引退したから 2、結婚のため 3、出産のため

4、夫の転勤のため 5、他からの誘いのため 6、人員整理のため

7、子どものため 8、親の介護のため

9、仕事のいきづまり (具体的に)

10、その他 (具体的に)

No.4

該当する方のみ

第二回目的転・退職の理由は何ですか (一〇をつけて下さい)。

- 1. 競技を引退したから
- 2. 結婚のため
- 3. 出産のため
- 4. 転勤のため
- 5. 他からの誘いのため
- 6. 人員整理のため
- 7. 子どものため
- 8. 親の介護のため
- 9. 定年退職
- 10. 仕事のいきづまり (具体的に)
- 11. その他 (具体的に)

⑥最初の職業選択の時、自分の経験したスポーツをどのように認識しましたか。

- 1. スポーツに関連する職業に就きたかった
- 2. スポーツを指導する職業に就きたかった
- 3. スポーツと全く関係ない職業に就きたかった
- 4. その他 (具体的に)

⑦職業についてどのように考えていますか (当てはまる方〇をつけて下さい)。

・女性と職業について

- ア、結婚したら仕事はやめますか 1はい 2いいえ
- イ、子どもができたなら仕事はやめますか 1はい 2いいえ

・仕事の内容について

- ア、責任のある仕事は苦手だ 1はい 2いいえ
- イ、男性と同じくらい仕事ができる 1はい 2いいえ
- ウ、管理職に就きたい 1はい 2いいえ
- エ、補助的な仕事が良い 1はい 2いいえ
- オ、お添出しは女性の仕事である 1はい 2いいえ
- カ、男女平等は当然だ 1はい 2いいえ

7. 結婚について

結婚をされましたか 1はい 2いいえ

「はい」の方だけお答え下さい

- ・何歳で結婚しましたか () 歳
- ・子どもは何人ですか () 人
- ・配偶者の職業は体育・スポーツ関係者ですか 1はい 2いいえ
- ・離婚しましたか 1はい 2いいえ

8. 大学時代に競技スポーツ経験をしたことがあなたの今後の人生にどのような影響を与えたと感じていますか、一つ選んで〇をつけて下さい。

- 1. 大いに役立った 2. 役立つ 3. どちらとも 4. 役立つ 5. 全く役立つな
立った いない かった かった

・具体例はこのようなか、当てはまるもの全てに〇をつけて下さい

- 1. 好きな勉強に就くことができた
- 2. あまり勉強をしなかったため、社会に出て困った
- 3. 勉強ができた
- 4. 怪我をしたので、長く苦しんでいる
- 5. 良い配属者に巡りあえることができた
- 6. 婚期を逃してしまった
- 7. 名声を得ることができた
- 8. 随分たくさんの期間とお金をかけたと思ひ
- 9. 健康な子どもを産むことができた
- 10. 精神的に強くなった
- 11. 人間関係について自信を得ることができた
- 12. スポーツが楽になった

・大学時代の部活動で強く印象に残っている事柄がありましたら、自由に書いて下さい。

昭和(平成) _____ 何年ころ ()

9. 卒業後から現在までのスポーツとの関わりはどのようなものでしょうか、ご自分の年齢を10年ごとに区切ってまとめて下さい (現在40代の方は、20代、30代、40代を記入して下さい。なおおまかで結構です。)

頻度は次の数字で 1. 月に一回程度 2. 月に2~4回 記入して下さい 3. 月に10回程度 4. 月に20回以上

年代	スポーツはしましたか	頻度
20代	はい はない (住が種目)	()
30代	はい はない (住が種目)	()
40代	はい はない (住が種目)	()
50代	はい はない (住が種目)	()
60代	はい はない (住が種目)	()

これからやっていた種目がありましたら書いて下さい。

()

以上で質問は終わります。大変長い時間ありがとうございました。ご協力に感謝します。